2015年4月6日

公益社団法人　日本人間ドック学会
理事長　奈良　昌治　殿
第56回 日本人間ドック学会学術大会
学術大会長　土屋　敦　殿

特定非営利活動法人　日本タバコフリー学会
代表理事　薗　潤

第56回 日本人間ドック学会学術大会における
養老猛司氏の特別講演中止のお願い

拝啓　時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

貴学会は予防医学の学会としては他学会にさきがけ「禁煙宣言」を出され、他の医学会や関係団体に強い影響を与え、日本の禁煙推進にご貢献いただいてきたことに、タバコフリーの社会を目指す本学会は心から敬服しております。

ところが、残念なことに、貴学会のホームページを拝見いたしますと、7月30日 31日に横浜で予定されております、第56回日本人間ドック学会学術大会の特別講演で、東京大学名誉教授の養老孟司氏の講演が予定されているようです。
養老氏は自ら喫煙者であることを公言し、「タバコと肺がんの因果関係は証明されていない、受動喫煙の被害をいち早く報告した平山論文も誤りだ」などの発言を公然とし、禁煙活動をファシズムと批判しており、愛煙家通信への寄稿の常連でもあります。

今回の養老氏の講演のタイトルは「自然としての身体」ということで、氏の解剖学者としての、本来の研究業績の報告であり、タバコ問題に関する内容ではないかもしれませんが、氏が喫煙を容認し、禁煙化運動を激しく批判していることは周知の事実であり、このような方に講演の機会を与えることは、その方の考えや行動を認めていることに他なりません。氏が他の講演などで、「人間ドック学会は禁煙宣言を出してはいるが、自分に講演をさせるということは、禁煙宣言の精神も怪しいものだ」などと話される可能性もあります。

一方、貴学会の「禁煙宣言」では、人間ドックを受診した喫煙者には積極的に禁煙指導を行うことを呼び掛けており、肺がんをはじめとする呼吸器疾患や循環器疾患の発病予防に禁煙が重要であることを認めておられます。

貴学会の方針は、養老氏の発言の内容とは明らかに相いれないと思われます。このような人の話を、会場費を払って入場している一般会員に聞かせる意味がどこにあるのでしょうか。貴学会の「禁煙宣言」が真に学会会員の総意であることを示すためにも、養老氏の特別講演はぜひ中止にしていただき、至急プログラムの変更を行われることを切望いたします。

ご多忙中に恐縮ですが、この要望に対する回答書を、本年5月31日（WHOの世界禁煙デー）までに頂ければ幸いです。なお、本要望書並びにご回答は、本学会のホームページなどを通じて公表させていただく予定ですので、ご了知をお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴学会の益々のご発展を心から祈念いたしております。

敬具